

あなたの社会人基礎力育成法

努力こそ大成への道

いきなり成功する人はいない。学生のうちは基礎をしっかり身に付けることが大事。全ては自分のためにと受けとめ、それを根気強くやり続けることが、自分自身の成長につながる。

30歳の若さで老人ホームの施設長として活躍する石井大輔さん。福祉の専門教育を受けたわけでもないのに、福祉業界の若きリーダーになりつつあるのは、子どもの頃からさまざまな経験を通して育まれてきた社会人基礎力のベースがあったからなのです。

行動力、実行力こそが、人をつくりだすエンジン

「福祉の世界に入った、きっかけは何ですか？」

福祉を最初に意識したのは、高校生の頃、かわいがってくれた祖母を病気で亡くしたときでした。最初は本人が希望したとおり、自宅で親族や近所の方々みんなで見送ることができました。「おばあちゃんには幸せだった。でも世の中には、おばあちゃんのような最期を迎えられない人もいます。そういう人のために福祉は存在しているんだな」と思ったのです。

それから大学に進学して、最初、国語科の高校教師を目指していました。ところが、1年生のときに阪神大震災があったので、被災地でボランティア活動をしたのがきっかけで、具体的な進路として福祉の仕事を意識するようになったのです。仮設住宅の方々に自衛隊がお風呂を提供する活動をしていて、それを見て伝っていたときに、たまたま視覚障害を持つ人のお世話をしたのがきっかけでした。それ以降、

大学2年生から卒業するまで、京阪神の福祉施設をいろいろまわって、見学やボランティアをさせてもらいました。教師になるか福祉の仕事に就くか最後まで迷いましたが、結局、福祉の道を選びました。福祉でも教育でも、私は自分の存在を少しでも社会に役立てたいという思いだったんです。まさに、大学時代は「前に踏み出す力」を育んだ時代でしたね。

「福祉の仕事に疑問を抱いたり、転職を考えたことは？」

一度もありません。一緒に仕事をしていた心理カウンセラーから「石井さんは、ストレスを溜めない能力を持っている」と言われたことがあります。たしかに、他の人の「大きな悩み」が私にはきつと「小さな悩み」レベルなんだらうと実感しています(笑)。これもたぶん、育った環境だと思えます。親や先生や近所の大人たちが、今、自分は何をすべきか、常に試練を与えてくれたのです。中学生の頃、不登校のクラスメイトがいて、先生から「あいつを学校に連れてくるのはお前の仕事だ」といきなり言われたりして(笑)。勉強のできない奴とか、ちょっと不良の奴とかがいっぱい私の周りに集まってきた。先生の代わりみたいなことをさせられてました(笑)。

福祉の現場の課題は、チームで働く力と発信力

「30歳の若さで老人ホームの施設長になって、さまざまな改革に着手されてきたと聞いています。最初に動いた施設では、25歳くらいのときから、施設運営の面でリーダー的な役割を任せられました。それが評価されたか(？)」

関連する法人が経営する現在の施設に、責任者として招かれたのです。職員80名くらいの施設ですが、挨拶はしっかりできる一人ひとりの熱心さが施設としてのパワーに活かされている気がしたので。社会人基礎力でいうと「チームで働く力」ですね。そこで、とにかく職員が顔を突き合わせる機会を多くつくりました。委員会活動を促進したり、同期会を結成したり、職員の親御さんを招く参観日をつくったり、関係する人たちをみんな巻き込んで、施設としての力をつけたと考えたのです。当初は残業代を出し、それが大事な仕事の一部であることをみんなに理解してもらいました。時間こそかかりましたが、その成果は着実に出ています。職員同士がつながると、お客さま(当施設では利用者さんのことを「お客さま」と呼んでいます)を「お客さま」と呼んでいます。施設が目指す「もう一つのわが

家」により近づくことができていると感じています。

「日本の福祉は現場レベルでどう変わるべきだと思いますか？」

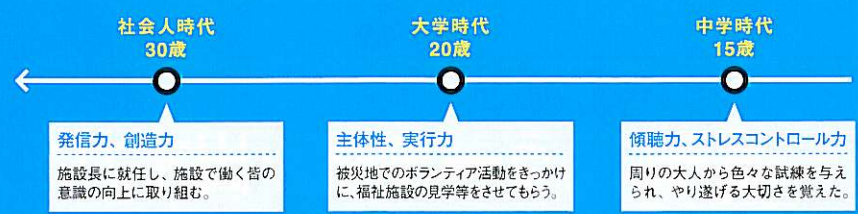
当施設の職員に対しては、学会に参加するなど、「人前で話す力」を身につける機会をつくっています。これまで福祉の世界は「内向き」になりがちでした。いまだに施設を利用することに抵抗感を持っている人は多いですし、職員の労働条件向上も、広く社会に福祉を理解してもらい必要があります。社会から評価してもらうことは、とても大切なことなんです。そのためにも、現場の一人ひとりが発信力を身につけるべきだと私は思っています。

「若い人は、目先の結果を求めすぎ、人が相手の福祉の仕事は、やったことの結果が出るのに時間のかかる仕事(石井さん談)。福祉の仕事の「やりがい」は、きつと時間を経て、見できるものなのでしょう。社会人基礎力も同じように、経験や時間を費やして、一つひとつ積み上げていくものだと感じました」

こちらにも掲載中！
社会人基礎力育成法
シゴトビラ
http://shigotobira.jp
シゴトビラ 検索
携帯からはこちら



Case4
石井 大輔
社会福祉法人十条龍谷会
特別養護老人ホーム ビハーラ十条
施設長
30歳の若さで施設長に就任。以来、着手した改革は同施設のみならず、日本の福祉そのものを「変えたい!」という意志に貫かれている。現在、35歳。



日本の福祉をよりよくするには、
現場からの発信力が必要。

Case 4
Daisuke Ishii